

NIFS-AP News

2019.10
VOL. 6

- ◆教員からのメッセージ
- ◆学内での学びの時間を充実させよう
- ◆1年生のPROG得点の変化
(3カ年比較)

教員から体育大生へのメッセージ



スポーツ・武道実践科学系
竹中 健太郎 准教授

研究キーワード

剣道 武道
指導法 稽古法

「「習（習い）、錬（実践）、工（工夫、改善）」の繰り返しを大切に！」

本学の学生の皆さん、こんにちは。剣道の授業を担当しています竹中健太郎です。
私は実技系の教員として、競技力向上という視点で、皆さんへの期待を伝えたいと思います。私の専門は、日本の伝統文化武道の一つ剣道ですが、実は剣術流派で有名な柳生新陰流では、「三磨の位」という教えがあります。「習（習い）、錬（実践）、工（工夫、改善）」の3つの過程を繰り返しながら、上達を目指すという教えです。これは今でいう「PDCA」、つまり実践して、振り返り、改善するという一連のサイクルを繰り返すことです。今の時代に限らず、人は自己の向上、成長をはかる時、この作業を繰り返してきました。

大学生になると、3つ目の「工」の部分の充実度が、競技力の向上に大きく関わるものと思います。自ら考えて工夫する力が重要です。今や競技の分野においても科学的な研究が充実していることから、様々な情報が拡散しています。したがって、自らが必要な情報を適切に選択、収集する必要があります。

高校までは、それらの作業をすべてコーチ（先生）が行っていたのかもしれませんが。しかし、大学で飛躍する選手は自己のコーディネート力が高い選手であることは間違いありません。競技の上達を目指す過程で、このサイクルが確立さえすれば、必然的に「実践的で創造的なリーダー」となるための資質は保証され、社会で必要とされるでしょう。

「やってみせ、言ってみせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ。」

スポーツマネジメントに関する科目を担当しております萩原悟一（はぎわらごいち）です。スポーツマネジメントというとビジネス？みたいな印象を抱かれると思いますが、スポーツチームに所属する人のマネジメントについても研究が行われています。皆さんは将来、体育・スポーツ分野におけるリーダーとなり、わが国のスポーツ業界をけん引していく存在となるでしょう。そこで重要なのは、いかに人を惹きつけマネジメントしていくかになると思います。在学中、教室での勉強はもちろんのこと課外活動でも活躍されていると思いますが、ぜひ、本学での学びの中で「どうすれば人を惹きつけ、マネジメントできるか？」についても考え経験していただければと思います。

ところで、皆様はタイトルにある名言をご存知でしょうか？これは山本五十六という海軍の軍人さんの残された言葉です。この言葉には続きがあり、「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。」「やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。」と続きます。この一連の文章にはどうすれば人を惹きつけ、マネジメントすることができるか凝縮されています。まずは、タイトルにもあるように、自分自身がやって見せること、人をきちんと評価することができているかを考えてみてください。皆様の活躍を期待しています！



スポーツ人文・応用社会科学系
萩原 悟一 准教授

研究キーワード

コミットメント
アイデンティフィケーション
アイトラッキングマーケティング
広告価値測定

学内での学びの時間を充実させよう

2018年度には、学内での“学生の主体的な学び”の環境の充実を図るために、NIFSギャラリーのテーブル、椅子、学生からの依頼の多かったコンセントなどを整備しました。

そして、2019年4月には大学図書館入口横の元事務室に「NIFSラコモ」ができました。自分のIT機器を活用しての学修や、ゆったりソファに座って動画視聴や読書ができます。グループ学習やミーティングに使ったりと利用方法はたくさんあります。1コマ空いた時など、積極的に有効活用してください！



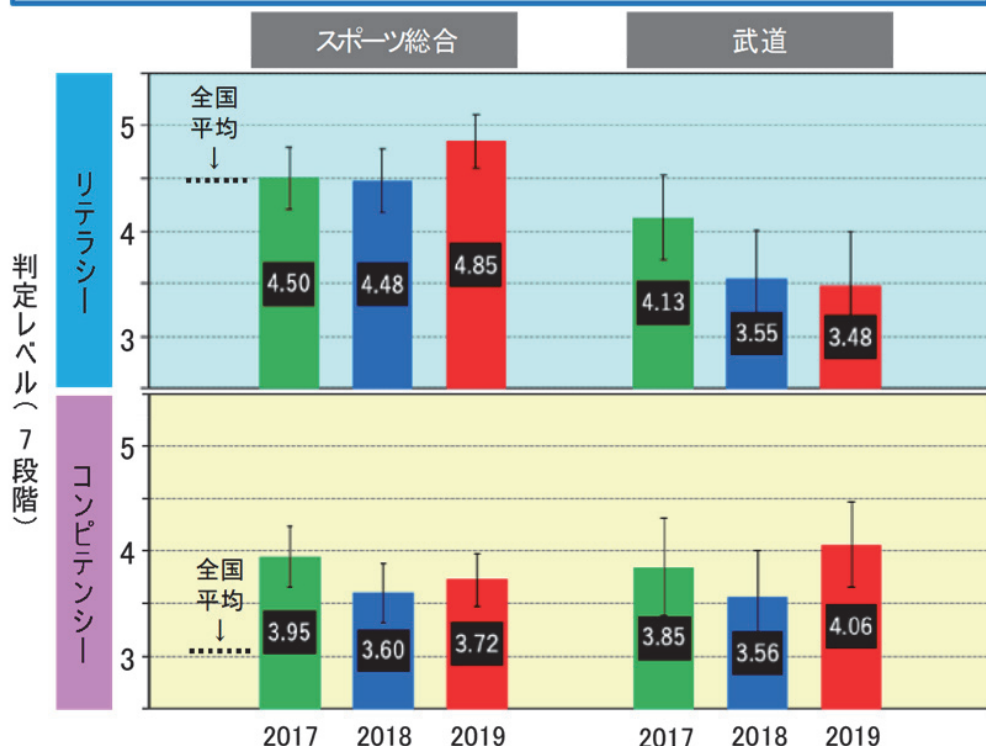
NIFSギャラリー ソファ入りました！



NIFSラコモ:ホワイトボードやコンセントも使ってOK！



1年生のPROG得点の変化(3カ年比較)



左のグラフは、1年次に受験した PROG テスト（汎用的能力）の過去3カ年度の推移を示したものです。2017 は 2017 年度入学生、2018 は 2018 年度入学生、2019 は 2019 年度入学生の課程毎のスコアの平均値を示しています。

本学学生の強みであるコンピテンシー（課題解決をするための行動力）は、全国平均値よりかなり高く、これまでと同じ傾向を示しています。一方、入学年度で少しずつ平均スコアに違いがあるようです。

2019 年度はスポーツ総合課程のリテラシー（知識を活用した課題解決力）が全国平均をはじめて上回り、武道課程では長所であるコンピテンシーがさらに高くなっています。それぞれの入学年度生に強み・弱みがありますが、それぞれの特性を意識しながら自己の学修を改善して下さい。

次のテストは3年次11月、4年次2月実施されます。色々なチャレンジによって、1年次の強みや弱みが改善されることを期待します。

<発行>

鹿屋体育大学 教育企画・評価室

〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地
大学院棟 1 階

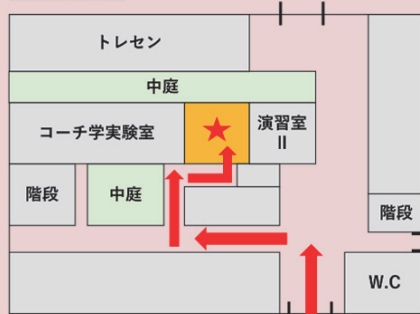
TEL&FAX : 0994-46-5082

E-MAIL: kyomu-ap@nifs-k.ac.jp

<企画・編集>

金高宏文・岡田あゆみ・近藤亮介

大学院棟



教育企画・評価室のHPも更新されているのでご覧ください



<http://ap.nifs-k.ac.jp>